

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成24年1月12日(2012.1.12)

【公開番号】特開2010-124924(P2010-124924A)

【公開日】平成22年6月10日(2010.6.10)

【年通号数】公開・登録公報2010-023

【出願番号】特願2008-300465(P2008-300465)

【国際特許分類】

A 6 1 B 6/03 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/03 3 2 1 D

A 6 1 B 6/03 3 2 1 F

A 6 1 B 6/03 3 7 1

A 6 1 B 6/03 3 3 0 A

【手続補正書】

【提出日】平成23年11月21日(2011.11.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検体にX線を照射するX線源と、前記X線源に対向配置され前記被検体を透過したX線を検出するX線検出器と、前記X線源と前記X線検出器を搭載し前記被検体の周囲を回転する回転円盤と、前記X線検出器で検出した透過X線量に基づき被検体の断層画像を再構成する画像再構成装置と、前記画像再構成装置で再構成した断層画像を表示する画像表示装置と、前記被検体を撮影する条件の設定操作に用いられる入力装置と、を備えたX線CT装置であって、

スキャノグラム撮影が終了したことを検知する検知装置と、

前記検知装置の検知に基づき前記回転円盤の回転開始を制御する制御装置と、

をさらに備えたことを特徴とするX線CT装置。

【請求項2】

請求項1に記載のX線CT装置において、

前記入力装置はディレー時間を設定する装置を有し、

前記制御装置は前記検知装置の検知時刻から前記ディレー時間が経過した後に前記回転円盤の回転を開始させることを特徴とするX線CT装置。

【請求項3】

請求項1に記載のX線CT装置において、

各種撮影プロトコルを記憶する記憶装置をさらに備え、

前記記憶装置は撮影プロトコル毎にディレー時間を記憶し、

前記制御装置は前記検知装置の検知時刻から前記ディレー時間が経過した後に前記回転円盤の回転を開始させることを特徴とするX線CT装置。

【請求項4】

請求項1に記載のX線CT装置において、

スキャナカバーが開いていることを検知するカバーオープン検知装置をさらに備え、

前記制御装置は前記カバーオープン検知装置がスキャナカバーが開いていることを検知し続けている間は前記回転円盤の回転開始をさせないことを特徴とするX線CT装置。